



『 放射線検査について 』

放射線にはもともと自然界にある自然放射線と検査などで使われる人工放射線の2通りがあり、その被ばくには外部被ばくと内部被ばくがあります。

外部被ばくとは、体の外側にある放射性物質から出た放射線によって被ばくすることであり、内部被ばくは呼吸や飲食等で体の「内側」に取り込まれた放射性物質から発せられる放射線によって被ばくすることです。

一般的に「被ばく」という言葉は良くないイメージでとらわれがちですが、医療における放射線は、がんをはじめ体の中の病気を発見するとともに、治療に活用するなど大変有益なものです。

検査には外部からX線を照射して検査を行う方法(胃透視検査や血管造影検査ならびにCT検査など)と、薬の投与後体内から放出される放射線をとらえて検査を行う方法(RI検査など)があります。

いずれの検査においても、必要最低限の放射線量しか使いませんので、人体に悪い影響を与えることはほとんどありません。

早期発見で自らの健康づくりをすすめるため、放射線検査を怖がらず、上手に活用することをおすすめします。



鹿児島県厚生連
中央検査室(診療放射線技師)
中村 道雄